



回収・再生・再利用の環を完成させるためのツールということで誌名を「RING」としました。
これはリサイクルが始まっていることを意味する「R·ING」からイメージしたタイトルです。

特集 1

「清涼飲料用ペットボトル容器」の設計認定基準

「飲料用ペットボトル容器」が設計認定基準案の一つとして公表され、現在認定に向けた準備を進めています。

特集 2

PETボトルをボトルtoボトルに資源循環しよう！ 自ら動く連携の輪が広がっています。

PETボトルへの社会的関心が高まる中で、回収、リサイクル、再製品化した結果、ボトルtoボトルを推進する動きが加速しています。そのためには動静脈連携が不可欠であり、事業系の排出事業者が自らボトルtoボトルを宣言、資源循環の連携の輪が広がっています。

大阪・関西万博



PETボトル専用の回収ボックスを47か所のリサイクルステーションに設置。敷地内でペール化しボトルtoボトルしています。

セレッソ大阪



2024年からホームゲームにおいて、「Bottle to Bottleプロジェクト」を実施。使用済みPETボトルの分別回収(本体とキャップ)を行っています。

関西大学



SDGs推進プロジェクトを立ち上げ、SDGsに取り組む学生、事業者が連携してボトルtoボトル、キャップの回収に取り組んでいます。

Contents



PETボトルリサイクルの
メールニュースを
配信しています

当協議会ホームページにて
登録ができます。

■ 資源循環型社会形成を目指して ～市町村紹介～	北海道 旭川市 岐阜県 岐阜市	6 7
■ 再商品化事業者紹介	豊通ペットリサイクルシステムズ株式会社	8
■ PETボトル再商品化施設一覧	2025年度の登録リサイクル施設	9
■ 会員企業訪問	グンゼ株式会社 プラスチックカンパニー	10
■ 再生樹脂利用事業者紹介	株式会社ポーラ	11
■ 新認定再商品化製品のご紹介／協議会活動報告／編集後記		12